

創業から46年。大栄環境グループのあゆみは、地域との絆づくりと可能性への挑戦の連続でした。創業当初は最終処分場建設への厳しい反対を受けるも、地域からの理解を得て出発。「廃棄物は資源」という考えのもと、廃棄物処理事業に加えていち早くリサイクル事業に着手し、阪神・淡路大震災時には災害廃棄物処理に尽力しました。

「創造・改革・挑戦」を理念に環境創造企業へと舵を切った後は、さまざまな環境関連事業を展開し、廃棄物処理施設を核としたエネルギーの地産地消「地域循環共生圏」の構築を目指し始めます。2022年には東証プライム市場に上場。現在は、循環経済の実現や資源循環を進化させる技術革新に向け、自治体や地域企業、大学など産官学で連携。一社では解決が困難な環境・社会・経済課題に対し、未来に向かって協働できるパートナーと一緒に挑戦しています。

取引自治体数※1

2015年
3月期2025年
3月期

197 → 487

災害支援協定の締結数

2018年
3月末時点2025年
3月末時点

15 → 200

公民連携による 地域循環共生圏の構築数

2021年
10月末時点2025年
3月末時点

2 → 3

※1 取引自治体数：都道府県、東京23区を含み、また広域連合に関しては、構成する各市町村をそれぞれ1自治体とカウントして算出



大栄環境グループのあゆみ

- 1979 大阪府和泉市に大栄環境株式会社を設立
- 1980 大阪府和泉市に管理型最終処分場を開設
- 1986 RDF(固形燃料)化施設を保有する西宮リサイクルセンターを開設
- 1995 阪神・淡路大震災発生後、災害廃棄物処理に尽力
「皆が助かれば良い」
採算よりも復興を願って持てる知識と技術を全て注ぎ込んだ
- 1997 安定的な経営を目指し第1次経営計画を策定
- 2001 和泉リサイクル環境公園を最終処分場跡地にオープン
- 2013 廃棄物処理時に発生するエネルギーを発電や温熱に利用する廃棄物複合型リサイクル施設「三重エネルギープラザ」を開設
焼却炉・焙焼炉・炭化炉を備え、地域へ熱供給





2020年 プラントメーカーと共同で、 食品廃棄物の バイオガス発電事業会社を設立

(株)神鋼環境ソリューションと共同で、バイオガス発電事業を行うリエネルミエ(株)を三重県伊賀市に設立。大栄環境(株)が製造する食品バイオマス由来のメタンガスを燃料に2023年4月から稼働しています。

2021年～ 社会インフラを支えるため、 自治体と公民連携協定を締結

地域の廃棄物処理を集約化し、効率的に資源やエネルギーに変えて地域に還元していくための公民連携を進めています。現在は3つの地域と協定を結び、リサイクルセンターやエネルギーセンターの建設に向けた準備を進めています。



自律走行モビリティ



スマート
ごみ箱

2023年 大学と共同開発した 「次世代ごみ収集システム」の実証実験を実施

連結子会社の(株)大栄環境総研は早稲田大学との共同開発を通じて、ごみを含むさまざまなものを運搬する自律走行モビリティとスマートごみ箱を開発し、「次世代ごみ収集システム」として実証実験を行いました。2025年日本国際博覧会(略称:大阪・関西万博)では、「スマート回収箱」をフードトラックに設置し、ごみを効率的に回収するとともに、資源循環の重要性をアピールしています。



2023年～ 「循環型社会形成推進に係る連携協定」を締結

2022年4月に施行されたプラスチック資源循環法を受け、大栄環境(株)は2023年に大阪府岸和田市と、2024年には岐阜県羽島市、大阪府藤井寺市、2025年5月には大阪府羽曳野市など、5自治体^{※3}とごみの減量化、再資源化および再商品化などの廃棄物施策に係る調査や研究、事業の実施などに連携して取り組むことを目的に協定を締結。環境負荷の少ない持続可能な循環型社会の形成を目指します。

※3 2025年5月時点

2024年～ 女子サッカークラブの 運営を通じて 地域振興に貢献

2024年3月、WEリーグ所属の日本女子プロサッカークラブ「INAC神戸レオネッサ」を運営するアイナックフットボールクラブ(株)の全株を取得し、スポーツ地域振興に取り組んでいます。同チームを運営していくことで地域の皆さまとの関係を深め、青少年の健全育成、スポーツ文化の振興や地域経済の発展に寄与することを目指しています。

2025年 2024年2月に誕生したリサイクルの トータルコーディネートサービス「iCEP PLASTICS」 が新たな資源循環モデルを創出

(株)八木熊、ユニアデックス(株)、連結子会社の資源循環システムズ(株)と大栄環境(株)は、各社の強みを活かし、廃プラスチックの回収、再生樹脂化、成形加工、製品化までを連携して展開。動静脈企業が一体となったワンストップな体制を構築し、循環型社会の実現に向けてリサイクルのトータルコーディネートサービスを提供しています。これまでマテリアルリサイクルが困難とされてきた建設現場由来の廃プラスチックを活用して製造されたリサイクルバリアードや、非自動車由来の廃プラスチックを活用して自動車部品を製造する「XtoCarプロジェクト」など、廃プラスチックの新たな資源循環モデルを次々と生み出しています。

iCEP PLASTICS <https://icep-plastics.rcs-dx.jp/>



- 2014 最終処分場跡地を活用し
太陽光発電事業開始
- 2016 株式会社総合農林を子会社化
森林保全事業に参入
- 2020 プラスチックパレットを製造する
株式会社プラファクトリー設立
- 2021 熊本県上益城郡5町などと地域循環共生圏推進に
向けた契約を締結
- 2022 三重県伊賀市にメタン発酵施設と
堆肥化施設を開設
- 2022 12月14日、東京証券取引所
プライム市場に上場
初値は公募価格1,350円を
27%上回る1,710円、
終値は1,796円
- 2023 兵庫県三木市に
三木バイオマスファクトリーを開設
- 2024 監査等委員会設置会社へ移行



三木
バイオマス
ファクトリー